

年頭ごあいさつ

成長への挑戦で 稼げるまちを創ろう



舞鶴商工会議所
会 頭 小 西 剛

明けましておめでとうございます。

皆様には、令和初の新春をご家族お揃いでお健やかにお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

どうか、この新しい年が、舞鶴にとりまして、また、皆様にとりまして「良き年」となりますことをご祈念申し上げる次第であります。

年頭にあたり、私は、商工会議所に課せられた責務の重さを肝に銘じて、皆様とともに、これまで以上に、国や府、市などの行政機関や、海上自衛隊、海上保安庁などとの良き関係を維持し、「元気なまち」「夢あるまち」そして「楽しいまち」をめざし、舞鶴商工会議所の組織を挙げて取り組んでいく決意を新たにしています。

さて、日本経済は、民間投資が底堅く比較的堅調を維持していると言われていています。しかしながら、国内では、消費税引き上げの反動やポストオリンピックの動向、国外では、予断を許さない米中貿易摩擦、道筋はついたものの今後の動向が注目される英国のEUからの離脱、不安定化する中東情勢など、不透明感が増しつつあり、決して楽観できる状況にはなく、景気減速のリスクは小さくありません。

人手不足が、ますます深刻になることが確実な中で、日本経済を持続的に発展させる最重要対策は「生産性の向上」以外ありません。

私は、生産性の向上を図るためには、国を挙げての取り組みが必要であり、特に私たち中小・小規模企業の取り組みについては、事業承継・創業や、身の丈にあったITの活用を通じた「成長への挑戦」が重要だと思っています。

本市の産業構造は、その強みであり特性でもある、市内の大手事業所がそれぞれ異業種であるとともに、不況に左右されない国の機関・施設が多いことから、比較的景気動向に左右されにくいという都市と言われています。

こうした強固かつ柔軟な産業基盤に加えて、IT、IoT、ロボットなどを活かした、新しい産業を創造することで“明るい未来を拓く”舞鶴ならではの“ビジネス環境”を構築できるのではないかと考えています。

舞鶴の基幹産業である造船業は“裾野の広い産業”です。官公需船の建造は造船本体のみならず、地域を支えようと懸命に頑張る中小企業への支援になり、地域の活性化にも大きなインパクトになるものです。官民一体となって、地域挙げての「国や関係先への受注活動」を展開することも重要です。

いずれにしましても、地域が元気で活力を有することは、市民生活の豊かさに直結するとともに、企業活動の活発化につながります。

また、エネルギー関連については、昨今の自然災害による大規模停電は、経済的にも民生の安定や生命を守るうえからも、良質な電気エネルギーの安定供給の重要性を改めて実感させてくれました。

引き続き、「安全」「安定供給」「経済性」「環境保全」を考えた多様な電源構成（ベスト・ミックス）による、現実的で合理性のあるバランスのとれたエネルギー政策が正しく実行されるよう期待しています。

舞鶴には、「海あり、山あり、人あり」という、たぐい稀な素材と潜在能力があります。これらをまちの財産として活かすため、皆さんの“知恵”や“工夫”と“熱い思い”、そして“お互いのご縁”の中で、地域にある資源とポテンシャルを最大限に活用し「みんなが稼げるまち」を創っていくことが必要だと考えています。

本年も、舞鶴商工会議所に対しまして、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、舞鶴のさらなる発展と会員企業のご繁栄、並びに皆様方の益々のご健勝・ご多幸を心からお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。